

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	特別展示事業(人文)				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	教育委員会	課等名	美術博物館		包含する細々目	1	10	5	6	11	8	7,036
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり											
施策	29 ふるさと意識の醸成											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		不要						
		事業期間	1	年度～	年度	関連計画 ・地域史研究事業 ・伊那谷文化史調査研究保管事業						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	・飯田下伊那広域圏の地域住民	圏域住民数(人)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
			177000	177000		
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
・特別展示の開催を通じて、歴史文化に対する関心を高め、新たな知識や視点に、地域住民が触れることができる。 ・調査研究活動の成果が地域住民に還元される。	特別展示の観覧者数(延べ人)	18目標	8300	最終目標		
		18実績	8304	19目標	11000	↑
	23目標	11000	23実績		最終目標達成年度	
	実施した特別展示の回数(回)	18目標	4	最終目標		
		18実績	4	19目標	3	↑
		23目標	3	23実績		最終目標達成年度

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値	
	伊那谷の歴史文化に関する特別展・企画展・特別陳列を、調査・研究活動の成果に基づいて計画立案し、開催する。 同時に、展覧会に関連した展示解説、講演会、講座、見学会などをおこなう。	18年度の実績	<展覧会> ・特別展「遠山霜月祭の世界 神・人・ムラのよみがえり」(10/1～11/5) ・特別陳列「日夏耿之介の眼 会津八一との出会い」(4/8～5/7) ・平常展示「印籠と根付 掌(てのひら)の動物園」(4/1～5/7) ・特別陳列「遠山霜月祭の世界」(11/16～1/8) <付随事業> ・講演会1・講座2・実演1・展示解説会5 <展示準備>平成19年度特別展・企画展準備	展覧会に付随した講座などの回数(回) 展覧会に付随した講座などへの参加者数(人)	9回 364人
		19年度計画	<展覧会> ・特別展「水谷章人写真展 1968～2007 アスリートの記憶」(7/14～8/26) ・特別陳列「桜 爛漫と愛惜の花」(4/3～5/6) ・特別陳列「飯田大火60年 まちを変えた大災害を振りかえる」(4/19～5/27) <付随事業> ・講演会1・座談会1・上映会6 <展示準備>平成20年度特別展・企画展準備	展覧会に付随した講座などの回数(回) 展覧会に付随した講座などへの参加者数(人)	7回 400人

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金	273	
	県支出金		
	起債		
	その他		
一般財源	9,001	7,022	
事業費計(A)	9,274	7,022	
人件費	正規職員所要時間	18年度 2,350	19年度 1,150
	臨時職員等所要時間	480	200
	人件費計(B)	8,920	4,327
	トータルコストA+B	18,194	11,349

特定財源内訳や補足事項
H20以降の上記事業費計は美術・人文・自然3分野の特別展示開催費を集計したもの。(H18・19年度事業費計は、人文分野のみ計上)
H18の国庫支出金は特別展が「重要文化財等公開促進事業」であったため。

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	・いつでも誰でもどこでも気軽に楽しむ ・自己表現の機会が得られる ・文化活動を主体的に担う	文化芸術活動に無縁な生活をおくっている人の割合(%)	現状値	64.8	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	50
	文化活動に自ら主体的に関わっている市民の数(人)	現状値	7052	19実績		
		20実績		21実績		
22実績			23目標	8500		

<p>この事業を開始したきっかけ</p> <p>当地住民による美術・人文・自然への関心の高まりから、平成元年に飯田市美術館が開館した。これ以来、館の基本テーマ「伊那谷の自然と文化」を、特別展等の開催を継続している。</p>	<p>事業を取り巻く状況の変化</p> <p>調査・研究の継続により修造資料や情報が蓄積されているので、テーマの幅が広がり、展示技術なども充実してきている。 他団体や機関との連携も深まっている。</p>	<p>事業に対する市民や議会の意見</p> <p>郷土の歴史文化に対する関心が高く、特別展等に対する期待が非常に大きい。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------

【See】18年度の振り返り

<p>目的 妥当性 評価</p>	<p>この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？</p>	<p>(評価) 結びつく (その理由) 特別展の観覧により歴史文化に対する関心が深まり、これらに親しむことができる。</p>	<p>有効性 評価</p>	<p>成果をさらに向上させる余地はありますか？</p>	<p>(評価) 余地がある (その理由) 調査研究活動をより深め、展示会の意義・内容を充実させることにより、特別展の魅力を高めることができる。また広報宣伝活動を強化して、観覧者数を増加することも必要である。</p>
	<p>対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？</p>	<p>(評価) 必要性がない (その理由) 市民に自然や文化・芸術に触れてもらうため。</p>		<p>廃止・休止した場合の影響はありますか？</p>	<p>(評価) 影響あり (その理由) 歴史文化に関して、深い理解をともなった「親しむ」場が存在しなくなる。</p>
	<p>意図の見直しの必要性はありますか？</p>	<p>(評価) 必要性がない (その理由) 特別展示は、地域の歴史文化に対する知識や興味を深める機会として有効である。</p>		<p>他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？</p>	<p>(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由) 近隣に類似事業が無いことから、統合はできない。</p>
	<p>市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)？</p>	<p>(評価) 必要ある (その理由) 豊かで多様な歴史文化を抱える本市としては、文化の優れた情報を提供する特別展示事業は主体的に進める必要がある。また特別展開催のためには、長期にわたる調査研究活動が必要のため、市の関与は不可欠である。</p>		<p>効率性を評価</p> <p>成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？</p>	<p>(評価) 不可能 (その理由) 広い視野に立った内容の濃い展示会の開催ができなくなる。また特別展開催にいたる諸作業には専門的な知識と経験が必要となるために、スタッフの充実も重要である。</p>
			<p>公平性 評価</p>	<p>受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？</p>	<p>(評価) 妥当である (受益者とその理由) 観覧料という形で来館者に負担を求めるとはやむを得ない。しかし当地の将来を担う未成年者については教育上の配慮が望ましく、また高齢者についても検討が必要と思われる。</p>

【Plan】改革改善

<p>今後の事業の方向性</p> <p><input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持</p> <p>実施年度 → 具体化</p>	<p>何を、いつまでにどうするのかの改革改善案</p> <p>特別展・企画展示は10か年計画に基づき、毎年見直ししながら進めているが、資料の収集保管・調査研究活動に基づいた、よりメリハリのある企画、時機を得た企画を考える必要がある。本年度中に、開催テーマ・内容・方法、ならびに広報方法等について見直し作業をおこなう。</p>
<p>上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法</p>	<p>展示会は資料の収集保管・調査研究活動の反映でもあるため、本館全体の活動内容に深く関わってくる。来年開館20年を迎えるのを契機に、市民・外部研究者・機関等の意見も聞きながら見直しを進める。</p>

【補足事項環境側面】

<p>(1) 環境影響評価の必要性判断</p>	<p>(2) 必要性な場合の実施事由</p>
<p>(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？</p>	

【指摘事項】

<p>施策マネジメント会議</p>	
<p>施策評価会議</p>	
<p>第5次基本構想基本計画推進委員会</p>	